追 悼

故 吉川 基道 会員（18期）
2019年 3月 13日逝去・78歳

1987年度 東京弁護士会 監事
1990年度 東京弁護士会 副会長

吉川基道弁護士を偲んで

会員　市川 和明（53期）

吉川基道弁護士は，1975年に大竹秀達弁護士と共同で麹町法律事務所を創設され，過去に複数の勤務弁護士を指導された。私も新人弁護士として2000年に入所して以来，多くのことを学ばせていただいた。

吉川弁護士とは，弁護修習の裁判期日（ちょっとしたハプニングがあった）において，相手方代理人として出席された際にお会いしたのが最初である。その直後の就職活動で，当会の求人情報を見ていたところ，麹町法律事務所の採用担当者に吉川弁護士のお名前があり，事件の相手方代理人だったことに気づいた。吉川弁護士は東京弁護士会の監事と副会長を務められており，私の修習先の事務所の先生方の中に吉川弁護士のことをご存じの方がいらして，吉川弁護士が非常に真面目な弁護士であるというお話もいただいた。そういった縁もあって，採用面接でも話題に事欠かず麹町法律事務所に入所することができたと思う。吉川弁護士は，1966年に弁護士登録した頃，いわゆる教科書裁判の弁護団に参加され，その際に知り合われた行政法学者である東京都立大学の兼子仁名誉教授と共著で「教育裁判（法学選書）」を出版されている。兼子教授のご紹介で，国と東京都を被告とするいわゆる住基ネット訴訟の杉並区の弁護も引き受けられ，私も参加させていただいた。

また，吉川弁護士は，海外旅行もお好きで，自ら英語のサイトにアクセスしてはホテルやオペラのチケットを手配するなどされていた。ここ数年も，英会話教室にも通い，通勤時にはイヤホンをして英会話講座を聞くなど興味の範囲も広く，学習意欲は衰えるところがなかったように思う。非常にゴルフもお好きで熱心に練習やトレーニングをされていた。70歳を超えてからだったかと思うが，毎日，スクワットをしているという話があってから3ヶ月くらいして，ふくらはぎが太くなったというのには驚かされた。

昨年11月末に麹町法律事務所の歴代勤務弁護士で吉川弁護士と大竹弁護士の喜寿のお祝いをしたが，その頃，既に吉川弁護士は病魔に冒されていた。医師からは抗がん剤治療を勧められたが，その副作用で弁護士の仕事ができなくなるので抗がん剤治療はしないとの断固たる決断をされ，亡くなる1ヶ月前には，鬼気迫る精神力と集中力で法廷で反対尋問をこなされた。私が代わりにやりますと言っても，できるところまでやるとの強い覚悟は揺るがなかった。吉川弁護士の真面目さ，責任感の強さ，依頼者への誠実さ，書面作成の緻密さ，反対尋問の的確さは，理想の弁護士像ではないかと思う。

生前に自らコーディネートされたという祭壇は，軽井沢をイメージした草花で覆われた清々しい雰囲気のもので，奥様が撮影された吉川弁護士の笑顔の写真や別荘近くに住み着いているムササビの写真が飾られ，自然を愛する吉川弁護士のお人柄が現れていたのは非常に印象的であった。字数の関係で限られたご紹介しかできないのが残念であるが，吉川弁護士が遺された弁護士の理想像は，吉川弁護士に接する機会のあった方々の胸にきっと刻まれていることと思われる。まだまだ足下にも及ばないところではあるが，自分もそこに一歩でも近づければと吉川弁護士の精神を引き継いでいきたい。

吉川基道先生，謹んでご逝去を悼み，生前の温かいご指導に対し，あらためて御礼申し上げるとともに，ご冥福をお祈り申し上げます。